

シリーズ タンチョウ

Vol. 337

鶴居村教育委員会タンチョウ自然専門員
音成邦仁

タンチョウ数かぞえ調査の結果

毎年恒例のタンチョウ数かぞえ調査(正式名：タンチョウ越冬分布調査／北海道事業)が、今年度も2回(12月2日、1月24日)実施されました。今号では2回目の結果をご報告します。

【参加人数】

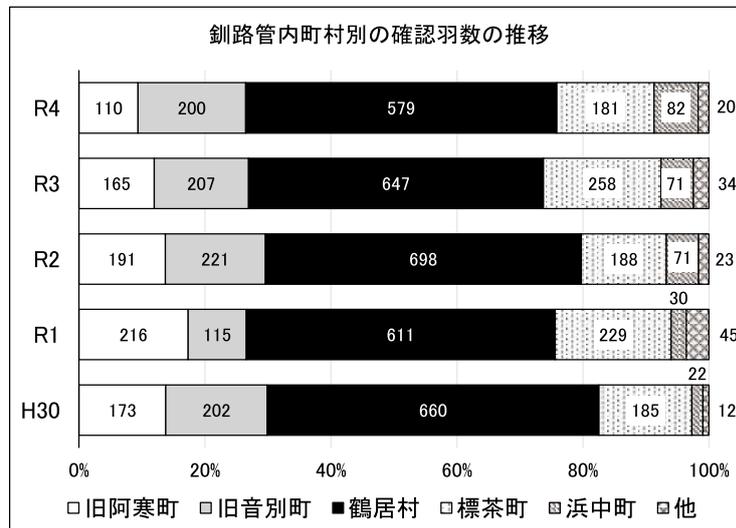
調査には、全道各地で181名と多くの住民が参加しました。このうち、鶴居村では1/3にあたる60名と断トツの人数でした。ちなみに1回目も460名のうち151名が小中学生を含む村民でした。多くの住民が参加する「鶴居スタイル」は関係者からも絶賛されています。

【確認羽数】

鶴居村で579羽(前年度比▲68羽)、全道で1,305羽(同▲184羽)が確認されました。いずれも昨年度の記録を下回りましたが、必ずしも実際に羽数が減ったと言い切れないのが、この調査の泣き所です。当日の鶴居村はグッと冷え込み、給餌場への集まりが悪かったのです。調査日の4日前には鶴見台とサンクチュアリで460羽が確認されましたが、調査当日は348羽にとどまりました。一方で、ねぐらとなる川では83羽が確認されましたが、ねぐらはすべてを見通せるわけではありません。普段なら給餌場に飛来していたはずのタンチョウのうち、相当数がねぐらに潜んでいた可能性が高いです。今のところは、鶴居村で越冬するタンチョウの羽数に大きな変化はないようです。

【分布状況】

新聞では「依然として釧路管内に約9割が集中」といった記事が出ていました。確かにその通りなのですが、阿寒町では減少傾向が、浜中町では増加傾向が見られます。2016年度から取り組まれている給餌量削減の効果かどうかは不明ですが、釧路管内といっても広いわけですから、もう少し細かく分析する必要があります。もちろん、羽数同様に長い目で見ることも大切です。



【まとめ】

この調査の結果は、どうしても調査日やその年の気候等に左右されます。羽数はとても分かりやすい目安にはなりますが、あくまでも「その年に確認された羽数」ととらえたほうがよいです。分布状況も含めて長い目で推移を見ないことには正確な判断は下せません。昨冬は鳥インフルエンザ感染というショッキングなニュースがありました。だからと言ってこれまでの取組が否定されるものではなく、むしろ、急激な方針や取組の変更は別の多くの問題を生みかねません。調査結果を慎重に分析し、冷静な判断・対処をすることが大切です。